

3～4日間の国内研修で、各調査先・テーマに関する事前学習を行ったあと、現地へ赴き、行政機関や関係団体等の取組について実地調査や現地職員と意見交換を行いました。また、同行した専門家の指導を受けながら、適宜、調査先のふりかえりを行い、知識を定着させながら理解を深め、政策形成能力や実行力の向上を図りました。

北米研修

◎ 多様な主体を活かす地域経営～全米の最も住みたい街から学ぶ～

日程 令和5年8月22日(火)～9月4日(月)

視察先 アメリカ合衆国
シアトル及びポートランド

同行講師 京都府立大学公共政策学部
教授・博士 川勝 健志 氏



ポートランド州立大学



シアトル交通局

欧州研修

◎ 欧州から学ぶ持続可能なまちづくり

日程 令和5年9月2日(土)～9月15日(金)

視察先 ドイツ(フランクフルト・ハイデルベルク等)
デンマーク(コペンハーゲン)
スウェーデン(イエーテボリ等)

同行講師 龍谷大学政策学部政策学科
教授・博士 服部 圭郎 氏



ニーダーラート(ドイツ)



デンマーク建築センター

アジア研修

◎ 自治体の海外戦略～活力あるアジアとの地域間交流促進～

日程 令和5年8月16日(水)～8月26日(土)

視察先 シンガポール
インドネシア

同行講師 明治大学経営学部公共経営学科
教授・博士 菊地 端夫 氏



住宅開発庁(シンガポール)



プカシ市役所(インドネシア)

アメリカ Portland Office of Community and Civic Life

市民の意見などを市政へ反映させる役割を担う Civic Life(ポートランドの行政組織)にて視察と意見交換を行いました。Civic Life では、住民の意見をいかに吸い上げ、施策に繋げていくかということについて受講者から多く質疑応答されました。



多様性を意識した部分については、人種だけではなく若い世代の住民などからも聞き取りが行われていること、住民参加が理念として浸透していることなど様々な気づきを得ることができました。

アメリカと日本では自治体行政の仕組みも違うため学んだこと全てを各自治体に反映させることは難しいかもしれませんが、住民を巻き込むことの重要性について理解を深めることや、住民とのかかわり方を再考するための良いきっかけとなりました。

スウェーデン Augustenborg Eco-City

かつては造船業で栄えたスウェーデン第3の都市マルメ。一時は産業衰退による人口減少と平地ゆへの水害に悩まされてきましたが、移民や難民を多く受け入れ、現在は急速に成長する都市として知られます。



このアウグステンボリ地区では 2000 年以降、水害対策として雨水の集積と屋根の緑化、温暖化対策として樹木の活用(木陰、雨水吸収、CO2吸収、生物多様性、O2生産等)を推進し、住民にも重要性を啓発しています。

2014年の大洪水ではこの地区だけ被害を免れ、優良なまちづくりとして国連より表彰されました。

この地区を視察することで、気候変動やいろんな年代・経済レベルの住民に対応した持続可能なまちづくりのシステムについて学ぶことができました。

インドネシア JNTO ジャカルタ事務所・Japan Travel Fair2023

ジャカルタ市にある JNTO(日本政府観光局)ジャカルタ事務所は、インドネシアにおける日本へのインバウンド市場の拡大を目指しています。

JNTO からは、国民の 9 割をムスリムの方が占める現地の特徴を踏まえたうえで、現地の海外旅行市場概況、日本への関心内容、効果的なプロモーション方法について話を聞きました。

また、市内ショッピングモールで開催されていた JNTO 主催の Japan Travel Fair では、和太鼓演奏や浴衣着付け体験、鮮やかな紅葉のパネルを展示して四季のある日本の美しい景色を紹介するなど、訪日旅行へ興味を惹く工夫が凝らされており、地元での新たなプロモーションを考える気づきの多い調査となりました。



